



神奈川県

平成 24 年度研究

高等学校における  
言語活動の充実に向けて

— 言語活動を位置付けた年間指導計画例の作成 —



神奈川県立総合教育センター



## はじめに

高等学校では、平成25年度入学生から新学習指導要領が全面実施されます。今回の改訂で、改善の重要な柱として明確に示されていることは、言うまでもなく「言語活動の充実」です。社会の国際化、高度情報化が進む中で、有用な知識や技術は日々更新されます。こうした変化に対応するためには単に知識・技能を習得するだけでなく、それらを実生活で活用する能力が問われることとなります。そのため、学校教育の場においては、意図的・計画的に言語活動を授業に位置付け、思考力・判断力・表現力等を生徒に身に付けさせることが求められているのです。

神奈川県立総合教育センターでは、平成21年度から小学校・中学校及び高等学校と段階的に、言語活動の充実に関する研究に取り組んできました。高等学校については、平成23年度に県立高等学校3校の協力を得て、より良い学習指導の在り方を研究し、「<高等学校>言語活動の充実を図る実践事例集」として、その成果をまとめました。この研究では、「考えを持つ」、「考えを広げる」及び「考えを深める」という三つの学習活動を設定することによって、思考力・判断力・表現力等を育成する単元事例を提示し、指導の工夫について発信しました。

今年度は、調査研究協力校において国語科、地理歴史科、数学科、理科、英語（専門教科）科の5教科で実施した単元の授業実践に基づいて、生徒の思考力・判断力・表現力等を確実に育成するための指導の充実とともに、年間を通じた計画的な指導プランの開発にも取り組み、言語活動の充実を図る年間指導計画のモデルを作成し提示しました。今後の授業づくりの参考としてご活用いただければ幸いです。

平成25年3月

神奈川県立総合教育センター

所 長 下山田伸一郎

# 目次

はじめに  
目次  
本冊子の目的と構成

## 第1章 今求められている言語活動の充実とは

---

- |                               |       |
|-------------------------------|-------|
| 1 生徒の学習上の課題と指導のポイント           | 1 ページ |
| (1) PISA 調査、全国学力・学習状況調査より     |       |
| (2) 神奈川県立高等学校学習状況調査より         |       |
| 2 高等学校で求められている学習指導            | 2 ページ |
| (1) 学力の3要素                    |       |
| (2) 言語活動の充実に関する指導事例集          |       |
| (3) 言語活動の充実を図るために             |       |
| 3 神奈川県立総合教育センターの取り組み          | 4 ページ |
| (1) 実践事例集の作成                  |       |
| (2) 思考力・判断力・表現力等を育成する三つの視点    |       |
| (3) 言語活動を位置付けた年間指導計画の必要性      |       |
| 4 言語活動を位置付けた年間指導計画作成への三つのステップ | 5 ページ |

## 第2章 言語活動の充実を図る実践事例

---

- |                            |        |
|----------------------------|--------|
| 1 各実践事例について                | 6 ページ  |
| コラム 「単元指導計画」について           |        |
| 2 国語・現代文の実践事例              | 7 ページ  |
| 3 地理歴史・世界史研究（学校設定科目）の実践事例  | 13 ページ |
| 4 数学・数学Ⅰの実践事例              | 19 ページ |
| 5 理科・物理Ⅰの実践事例              | 25 ページ |
| 6 英語（専門教科）・英語理解（専門科目）の実践事例 | 31 ページ |
| 7 実践事例から得られたこと             | 37 ページ |
| (1) 考えを持たせ、広げさせる工夫         |        |
| (2) 考えを深めさせる工夫             |        |
| (3) 時間の確保                  |        |

## 第3章 年間指導計画作成の視点と例示

---

- |                         |        |
|-------------------------|--------|
| 1 実践事例から見いだされた二つの視点     | 40 ページ |
| (1) 段階を追って力を身に付けさせる     |        |
| (2) 繰り返すことで慣れさせる        |        |
| 2 言語活動を位置付けた年間指導計画例について | 41 ページ |
| (1) 年間指導計画例について         |        |
| (2) 年間指導計画例の概要          |        |
| (3) 年間指導計画例の記載内容        |        |
| (4) 各教科の年間指導計画例         |        |
| 国語    現代文B              | 43 ページ |
| 地理歴史    世界史A            | 45 ページ |
| 数学    数学Ⅰ               | 47 ページ |
| 理科    物理基礎              | 49 ページ |
| 外国語    コミュニケーション英語Ⅰ     | 51 ページ |

---

終章 これからの指導に向けて 53 ページ  
引用文献・参考文献

# 本冊子の目的と構成

## 1 本冊子の目的

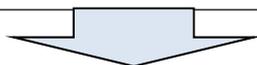
本冊子は、高等学校における言語活動の充実を図るために、計画的・継続的な指導に向けて、5教科の実践事例に基づき、年間指導計画作成の視点と年間指導計画例を提示します。各高等学校において、更なる言語活動の充実を図るための指導に資することを目的としています。

## 2 本冊子の構成

本冊子は、第1章から順を追って読み進める構成になっています。

### 【第1章】 言語活動の充実が求められている背景を確認する

高等学校の各教科・科目等において言語活動の充実が求められている背景を確認します。言語活動の充実を図るために、年間指導計画の必要性について理解します。



### 【第2章】 言語活動の充実を図る実践事例を中心として、年間指導計画作成の視点を考える

5教科の授業実践事例の成果や課題及び改善策を通して、言語活動の充実を図るための年間指導計画作成の視点を理解します。



### 【第3章】 年間指導計画作成の視点に基づき、作成した年間指導計画例から言語活動の充実について考えを深める

実践事例から、計画的・継続的に言語活動の充実を図る視点を明らかにしました。その視点に基づき、作成した年間指導計画例から言語活動の充実について考えを深めます。

# 第1章 今求められている言語活動の充実とは

## 1 生徒の学習上の課題と指導のポイント

今求められている言語活動の充実を図るに当たり、生徒の学習と指導の課題について確認しておきます。

### (1) PISA 調査、全国学力・学習状況調査より

国際的な学力調査である PISA 調査の結果では、我が国の子どもたちは、必要な情報を見つけ出し取り出すことは得意だが、情報相互の関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることが苦手であることが指摘されています。また、全国学力・学習状況調査の結果からは、自分の考えを具体的に書いたり、数学的に表現したりすることに課題がみられます。こうした結果から、我が国の子どもたちには思考力・判断力・表現力等に課題があることが分かります。

### (2) 神奈川県立高等学校学習状況調査より

神奈川県立高等学校学習状況調査は、高等学校学習指導要領の目標、内容に照らした生徒の学習状況について調査を行い、各学校の継続的な教科指導の改善を図ることを目的としています。平成 23 年度は、県立高等学校全日制課程の第 2 学年に在籍する生徒全員に、国語、数学、外国語（英語）の 3 教科で調査を行いました。

その結果、「平成 23 年度神奈川県立高等学校学習状況調査報告書」（以下、「H23 報告書」という。）において、調査結果の特色として、「記述式問題の通過率は選択式問題等に比べて依然として低く、無解答率も高い」ことが指摘されています。このことから、生徒が自分の考えをまとめて表現することや既習事項を活用することに課題があることが挙げられています。そのため、「既習事項を活用しながら、生徒に考えさせ、自分の考えたことを話したり書いたりして表現させる言語活動を一層行う」必要性が述べられています(pp. 4-5)。

また、「H23 報告書」において、言語活動の具体例として、「例えば、授業において、説明・論述といった『言語活動』をさまざまな場面に位置付けることが考えられ、こうした取組みを通して、自分の考えを筋道立てて説明するために、あるいは論旨を明確に論述するために自ら調べ、学ぶ態度を育成することが期待できる」とあります (p. 15)。しかし、「説明・論述」といった言語活動を、更に質的に分類した上で、各教科・科目等の特性を踏まえ、どのように指導計画に位置付けて指導すべきか明確にする必要があります。

「H23 報告書」からは、言語活動の充実を図るに当たり、各教科・科目等の特性を踏まえ、言語活動を質的に分類した上で、指導計画に適切に位置付け、継続的に指導していく必要があることが分かります。

## (1) 学力の3要素

平成19年6月に学校教育法が一部改正されました。そこでは、生徒に身に付けさせるべき学力が規定されました。中央教育審議会答申（「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（答申）」平成20年1月17日 p.21 以下「H20 答申」という。）において、学校教育法で規定された学力の3要素は、次のように整理されています。

基礎的・基本的な  
知識・技能

知識・技能を活用して課題を  
解決するために必要な  
思考力・判断力・  
表現力等

学習意欲

「H20 答申」を受けて、平成21年に告示された新学習指導要領でも、言うまでもなく学力の3要素を踏まえた指導を求めています。学力の3要素をバランスよく育成することが必要なのです。

## (2) 言語活動の充実に関する指導事例集

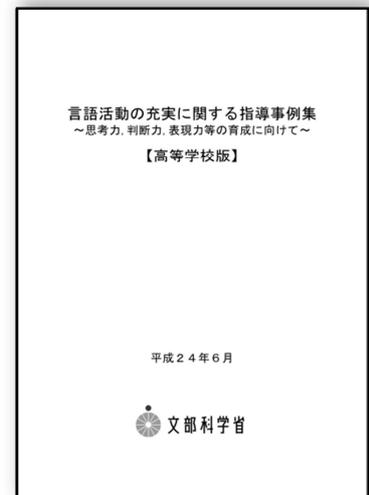
学力の3要素が規定されたことにより、新学習指導要領では、基礎的・基本的な知識・技能の「習得」に偏ることなく、知識・技能を「活用」して課題を解決するための思考力・判断力・表現力等を育成することが求められています。

このことは、知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化する中、次代を担う子どもたちに、「幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が一層求められている」からです。（文部科学省 2012 「言語活動の充実に関する指導事例集～思考力、判断力、表現力等の育成に向けて～【高等学校版】 p. 1 以下「指導事例集」という。）

この「指導事例集」では、言語活動の充実に向けた基本的な考え方や言語の役割を踏まえた言語活動について解説しています。また、共通教科10教科、専門教科8教科、総合的な学習の時間及び特別活動における優れた事例が計74事例示されています。これらの事例を参考に、高等学校の全ての教科・科目等において、言語活動の充実が図れるよう、文部科学省の取組みも進められています。

（なお、この指導事例集は、文部科学省のホームページからダウンロードすることができます。）

[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/gengo/1322283.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/gengo/1322283.htm)



### (3) 言語活動の充実を図るために

「H20 答申」には、思考力・判断力・表現力等を育成するために、次のような学習活動が示されています。

- ① 体験から感じ取ったことを表現する
- ② 事実を正確に理解し伝達する
- ③ 概念・法則・意図などを解釈し、説明したり活用したりする
- ④ 情報を分析・評価し、論述する
- ⑤ 課題について、構想を立て実践し、評価・改善する
- ⑥ 互いの考えを伝え合い、自らの考えや集団の考えを発展させる

「H20 答申」 p. 25

こうした学習活動は、いわゆる言葉だけではなく、数式や化学反応式なども含む広い意味での言語を用いて行われます。思考力・判断力・表現力等を育成するためには、各教科・科目等において、知識・技能を活用する学習活動、とりわけ記録・要約・説明・論述・討論などの言語活動を生徒の発達段階に応じて行うことが重要であると、「H20 答申」では示されています。

しかし、記録・要約・説明・論述・討論などの言語活動は、単に活動すればよいものではありません。言語活動を通じて、各教科・科目等の目標を達成することが必要です。それでは、具体的に記録・要約・説明・論述・討論などの言語活動を、生徒にどのように行わせたらよいのでしょうか。

「H20 答申」において、言語は知的活動（論理や思考）の基盤であり、またコミュニケーションや感性・情緒の基盤であるとされています。そのため、各教科・科目等において、言語活動の充実を図るためには、こうした言語の果たす役割を踏まえ、指導を行うことが必要です。前述した「指導事例集」には、言語の役割について次のようにまとめてあります。

- (1) 知的活動（論理や思考）に関すること
  - ア 事実等を正確に理解し、他者に的確に分かりやすく伝えること
  - イ 事実等を解釈し説明するとともに、自分の考えをもつこと、さらに互いの考えを伝え合うことで、自分の考えや集団の考えを発展させること
- (2) コミュニケーションや感性・情緒に関すること
  - ア 互いの存在についての理解を深め、尊重すること
  - イ 感じたことを言葉にしたり、それらの言葉を互いに伝え合ったりすること

「指導事例集」 pp. 7-9 を基に作成

特に「(1) 知的活動（論理や思考）に関すること」には、事実等を理解したり、解釈したりすることと、他者に説明したり、伝え合ったりすることが示されています。生徒に考えを持たせるだけでなく、ほかの生徒に説明させたり、考えを伝え合ったりさせることで、考えを広げさせたり深めさせたりすることが重要なのです。教員が知識を教え込む授業でなく、生徒自身が話し合いや伝え合う活動を通じて、主体的に学んでいくことで、思考力・判断力・表現力等を育成していくことが必要です。

### (1) 実践事例集の作成

神奈川県立総合教育センターでは、平成 23 年度に高等学校における言語活動の充実に向け、国語・地理歴史・数学・理科の 4 教科の実践を行い、「＜高等学校＞言語活動の充実を図る実践事例集」（以下、「実践事例集」という。）をまとめました。言語活動を明確に位置付けた単元指導計画や、様々な学習活動と学習形態の工夫を掲載しています。

### (2) 思考力・判断力・表現力等を育成する三つの視点

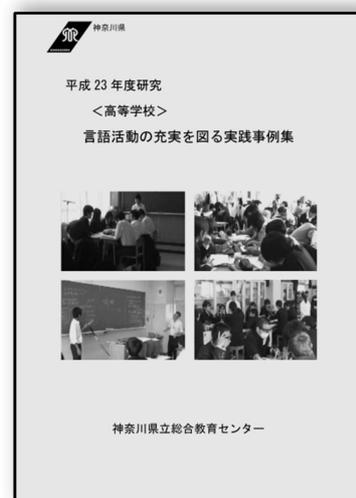
「実践事例集」では、言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育成するために、三つの視点を示しました。

- ① 各教科・各単元の指導計画において、言語活動を明確に位置付ける
- ② 思考力・判断力・表現力等を育成するための指導と学習活動の工夫をする
- ③ 効果的な学習形態を工夫する

上記の三つの視点に基づき、4 教科で授業実践を行い、実践から得られた教材や指導の工夫、学習形態の工夫をまとめました。授業者が三つの視点を意識し、授業実践を行うことで、生徒が主体的に言語活動に取り組み、単元の目標を達成することができました。

実践事例の詳細は、神奈川県立総合教育センターのホームページからダウンロードすることができますので、参考にしてください。

<http://www.edu-ctr.pref.kanagawa.jp/kankoubutu/>



### (3) 言語活動を位置付けた年間指導計画の必要性

平成 23 年度の研究では、単元指導計画に言語活動を位置付けた実践を行いました。生徒の思考力・判断力・表現力等を育成していくには、一つの単元だけではなく、年間を通じて計画的・継続的に指導していくことが必要になります。

また、単に活動に終始するのではなく、言語活動を通じて各教科・科目等の目標を達成していくという視点が重要です。教員が段階を追って計画的・継続的に指導していくことが必要となります。そのためには、単元相互の関連性や系統性に留意する必要があります。

計画的・継続的に指導することが必要なことは、「指導事例集」にも、「例えば、思考力、判断力、表現力等に係るどのような力を育むために、それにふさわしいどのような言語活動を、どの場面で行うのか等を、各教科・科目等の指導計画に明確に位置付けることが求められる」(p. 11)と明記されています。

## 4

### 言語活動を位置付けた年間指導計画作成への三つのステップ

県立高等学校3校に調査研究協力を依頼し、調査研究協力員による国語・地理歴史・数学・理科・英語（専門教科）の5教科の実践研究を行いました。各調査研究協力校の年間を通じた校内授業研究のサイクルの中に、「言語活動の充実に焦点を当てた単元の授業実践」を2回設定しました。

1回目の授業実践は6月中旬から7月上旬に実施し、そこで見いだされた課題に基づいた改善策を、10月下旬から11月下旬に行った2回目の授業実践に反映させました。さらに、2回目の授業実践で確認された成果と課題及び改善策を明らかにしました。

こうした一連の取組みを通じ、年間を通して思考力・判断力・表現力等を育む学習活動の在り方について考察し、言語活動を適切に位置付けた年間指導計画例を作成することとしました。具体的には、次のようにまとめました。

#### 【言語活動を位置付けた年間指導計画作成への三つのステップ】

